

平成30年度 大阪市立東淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

**平成30年度 大阪市立東淀中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3 年	学校	180	72	56	61	41	63	3.3	5.4	3.7	17.9	5.8
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	180	49.7	45.5	54.0	59.8	52.7	18.1	5.2	11.1	6.3	4.3
	大阪市	—	51.6	48.1	56.7	56.5	56.2	16.9	4.6	10.5	7.2	3.8
9月4日	大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.3	7.4	3.6

3 大阪市中学校3年生統一テスト

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3 年	学校	182	58.4	56.8	55.6	61.1	56.8
10月4日	大阪市	—	60.2	58.8	59.2	57.1	60.7

平成30年度 大阪市立東淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

***全国学力・学習状況調査**: 平均正答率を見ると、年々標準化得点が微増ではあるが、国語、数学とも上がってきている。また、理科においては大阪市平均に追いつくことができている。この結果は、生活指導において落ち着いた状況で学習できるようになってきたことが一番の原因だと考えられる。具体的には生徒質問紙における「学校の規則を守っていますか」の肯定的回答率が89%を超えてきていることがこれを示しており、生活指導における継続した根気強い取組が成果となっている。また、少人数授業や情報機器を使った授業形態の工夫などの学力向上に向けた取組の効果も表れてきているのではないか。

***チャレンジテスト3年**: 理科以外の平均正答率は大阪市平均よりも低い状況は変わらないが、理科は3ポイント大阪市を上回っており、成果が見られる。大阪市平均を基準とした標準化得点は中1で93.7、中2で99.0、中3で97.3と推移しており、入学時より上昇傾向を維持できているのではないか。ただ、大阪市平均よりも低くなっていることは現実であり、今後は進路を意識しながら継続して学力向上を目指していく。

***3年生統一テスト**: ここ3年間の大坂市を基準とした標準化得点は平成28年は89.1、平成29年は94.9、平成30年度は97.5と学校として上昇傾向が続いているが、生活指導を含めた学力向上の取組の成果ではないか。今後もこの傾向を維持しながら標準化得点の100点越えを目指して取り組んでいく必要がある。

【今後に向けて】

・全国学力・学習状況調査における生徒質問紙では、「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」の肯定的回答率は95.1%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的回答率は96.7%といずれも全国平均を超えている。それに対して「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか」の肯定的回答率は29.0%、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の肯定的回答率は61.7%といずれも全国平均を下回っている。この結果は、自分の思い、理想に反して、実際は具体的に実行されていない自分に対する否定的な感情の表れであり、「自分にはよいところがありますか」の肯定的回答率が66.1%、「先生はあなたのようにいいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答率66.1%と自尊感情の低さの原因となっているように分析できる。自尊感情の低下は、自分自身の将来へのモチベーションを低下させ、展望を作りづらくなっている一番の原因と考えられる。この結果を受けて、昨年度より、達成感や存在感を実際に体験し感じ取れるような活動を重視し、出前授業や校外活動にも取り入れ実践してきた。自分自身の可能性の認識や、将来への期待を持たせることにより、現実的でより具体的な目標を設定させ、その目標に向けて自発的で積極的な学習意欲を引き出せる目標に、今後も授業や取組を長期的展望を持って継続的に実施していく。